

二年間の助成を受けて

氏名：N. Q. D.

日越大学地域研究プログラム日本研究専攻

1. 二年間の振り返り

「私は日越大学と出会ったのは実に偶然である。

ある日、フェイスブックのニュースフィードを見たりしていた時、日越の2017年度修士課程募集の投稿が目にとまった。締め切りまで残り5日しかなかったが、「自分のチャンスだ!」と思い、間に合うように迅速に書類を準備し応募をした。

日越大学の入学面接に受かり、さらにゼンショープログラムの支援金の受給生として採用され、大変嬉しく思っている。自分の人生の新たなチャプターが始まったのだ! これからの2年間、自分の研究に一所懸命に頑張り、修士の生活を楽しんでいきたいと思う。豊かな人生を送った2年後の自分を期待している。」

2年前に日越大学に入ったばかりの時、上の文章をゼンショープログラムの第1回レポートの冒頭につけた。本レポートでは、最終回のレポートとしてその二年間を振り返りたい。

1.1 日本でのインターシップについて

2018年9月から2019年1月までの間、東京大学でのインターンシップに参加した。4ヶ月という短い期間だが、東京大学の聴講生として、講義や研究活動、そして部活動にいたるまでのあらゆる面で「東大生の日々」を過ごすことができ、東大生の誇りとその苦労を実感した。東京大学の他に、早稲田大学や昭和女子大学、山梨県立大学でも充実した講義やフィールドワークにも参加できた。インターンシップ期間中は、日本人学生だけではなく、多くの外国人留学生とも交流することで、世界のボーダーレス化を強く感じる事ができた。これから日越大学で学んだことを活かして、国境を超えたグローバル人材を目指していきたいと思う。

1.2 謝辞

このように、充実した二年間を過ごすことができ、先述した2年前日越大学に入った時の期待が応えられました。それは様々な方々のおかげです。

まず、いつもご支援をいただいた株式会社ゼンショーホールディングスの皆様に感謝申し上げます。毎月の支援金のおかげで、心配や不安なく勉強・研究・課外活動に集中し、やりたいことをやり放題することができた。また、日本のインターンシップの時、本社を訪問する機会をいただき、すき家をはじめゼンショーグループの展開事業の取り組みについてご紹介くださり多くの刺激を受け、学生たちにとって非常に勉強になりました。

次に日越大学・人文社会大学、そして東京大学をはじめ日本の協力大学の先生方に感謝申し上げます。先生方にいつも熱心でご指導いただき、いつも学生のためにご尽力をいただき、誠にありがとうございました。学生たちも先生方を見習い、将来多くの人を支え社会に貢献できるように頑張ります。

日越大学の下で、多くの喜びとチャレンジのある2年間を過ごし、私たちはより多くの知識を得て、新しい仲間ができました。それを糧にして、将来の機会をつかみたいと思います。

2. 現在の進路状況

- ・昭和女子大学国際文化研究所のベトナムとの交流プログラムでサポート役として参加する。
- ・JICAの草の根技術協力事業でコーディネーターとして参加する。

(事業名：農村体験型ツーリズム推進のための青少年教育プログラム構築)

- ・ベトナムに進出している、または進出する予定のある日系企業の案内・サポートやコンサルティングなどを行う。